

幸手市立さかえ小学校 学力保障グランドデザイン

学校教育目標

- 思いやりのある子
- かしこい子
- たくましい子

学校研修課題

子供が社会をよりよく営むために、
読み取る力を身につけられる学習の在り方
～国語科の指導・支援を要として～

本年度の重点

- 1 基礎基本の定着
(その学年で学んだことはその学年で定着)
- 2 主体的・対話的で深い学びの授業の創造
- 3 非認知能力の向上 (自己肯定感の向上)

目標達成の指針

- 1 全国学力学習状況調査 平均正答率
- 2 埼玉県学力・学習状況調査 学力が伸びた児童の割合
- 3 幸手市統一学力調査 平均到達スコア
- 4 自主学習 ノート1冊以上終えた児童の割合
- 5 児童アンケート 自分にはよいところがあるの項目での肯定的な回答の割合
- 6 タブレットを効果的に活用した授業 年間実施日数

新しい時代を切り拓く生きる力と心豊かでたくましい人間力をもつ児童の育成

学校の共通行動



❖ 児童の実態の把握

各種調査に基づき、客観的な児童の実態把握を行う。それをもとに、個に応じた手立てを講じ、個別最適な学びの保障を進める。

❖ 授業規律、学習展開の統一

幸手スタンダード授業5 with GIGAに沿った授業展開を実践する。授業規律の徹底、学習展開の統一化を図り、児童が学びやすい環境を整える。(課題から始まり、個別の学び、対話的な学び、振り返りで終わる授業の実践)

❖ できるまで繰り返す学習指導

学習内容の定着を図るため、各種調査の問題、ドリル、プリントなどを繰り返し取り組む。

❖ 非認知能力の向上

本物に触れる体験活動を計画し、児童一人一人がやる気、意欲を高め主体的に学ぶ力を伸ばす。

確かな授業実践



❖ 主体的・対話的で深い学びの授業実践

日々の授業が日常生活にどのようにつながっているかを意識させる。そこから自ら学ぼうとする意欲を高め、互いに学びあう場を設け、より深い学びへつなげる授業を行う。

❖ 自らの学びを振り返る授業実践

授業で「何を学んだのか」「他者との関わり」「今後の生活にどのように生かしていくのか」の視点で学びの振り返りを行う。

❖ 校内課題研究を通じた授業実践

国語科を中心とし、児童の読解力を向上させるための授業づくりを実践を積み重ね、さかえ小独自のスタイルを構築する。

❖ タブレットを効果的に活用した授業実践

マスタアイテムとしての端末を効果的に活用しながら授業を行う。

授業外での取組



❖ 学力向上週間の取組

各種調査をもとに、年間を通じて繰り返し取り組む。(各種調査の再チャレンジ、プリント集の活用)

4月～5月 基礎学力コンテスト 12月～1月 パワーアップシートB
6月～7月 パワーアップシートA 1月～2月 確認テストB
9月～10月 確認テストA 2月～3月 コバトン問題集
11月～12月 統一学力調査

❖ 業前時間を活用した基礎学力の定着

曜日ごとに取り組みを設定し、年間を通じて釣り合わせる
火曜日：パワーアップタイム(国語、算数を中心に)
木曜日：読書タイム、朝会講話の要約

❖ 日常的なタブレットの活用

文房具としてのタブレットの活用を積極的に進め、授業時間はもちろん、日常的に活用できる環境を整える。隙間時間に、タイピング練習などに取り組む。

家庭・学校間連携



❖ 家庭学習、自主学習の習慣化

学校での学びに加えて、家庭での学びの定着を図る。取り組み方の周知や毎日取り組むよう日々の見届けを確実に。そして、学ぶことが当たり前という意識をもたせる。

❖ 中学校区との連携

学習面では、国語科、外国語科を軸として、互いに授業を見合いながら、より良い授業づくりの視点で意見交換を図る。教育相談、生徒指導の取組から、情報を共有し、9か年を見据えた児童生徒の育成を進める。

❖ 端末を活用した連携

Teamsを活用し、家庭への連絡、オンライン授業の推進、ミライシード、オクリンクの活用による個別最適な学びにつながる取組を進め、個に応じた指導の充実を図る。